

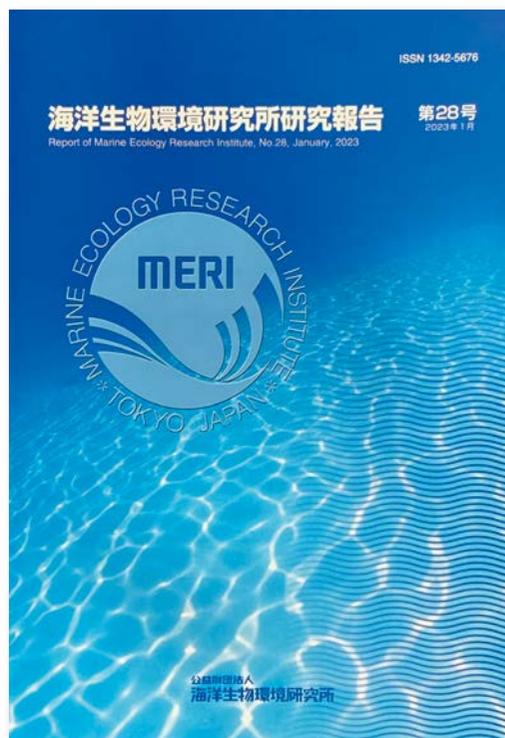


書評・新刊紹介

馬場 将輔・加藤 亜記 著

日本産無節サンゴモの分類と分布

日本産の無節サンゴモ類（81種3品種）の多くについてカラー写真と詳細な解説付きで図鑑的な要素もある原著論文が2023年1月に海生研研報の第28号として発刊された。新刊紹介ではこれまで、単行本や図鑑などが主に紹介されてきたが、252ページにわたる本号を手に取り、ページを捲っていくにつれ、このような素晴らしい内容を和文誌「藻類」にも是非掲載させて欲しいという思いが込み上げるとともに、より多くの藻類研究者に本論文を紹介したいという衝動に駆られ、「新刊紹介」として紹介する次第である。第一著者の馬場氏は2000年に刊行された海生研研報の第1号にも「日本産サンゴモ類の種類と形態」と題して日本の岩礁域で一般的に見られるサンゴモ類61種についての解説と図解を掲載しており、こちらは無節サンゴモ類だけでなく有節サンゴモ類も取り扱っている。これに対し、本論文では日本から記録された無節サンゴモ各種について、基本的な体構造と生殖器官の特徴を記載し、図示するとともに、標本に基づく分布域および問題点を示した大作である。2022年6月までに日本産として報告された無節サンゴモ98分類群のうち、本論文では75分類群（72種3品種）を確認し、12分類群（10種2品種）を日本産から除外、7種を他種に統合、4種を不明種とするとともに、日本新産種として9種（新称：エンリンモカサ、カンムリモカサ、ジュウジモカサ、クサビイシゴロモ、カスミイシゴロモ、チヂミオコシ、ナンカイオコシ、フナフチオコシ、オオエンジイシモ）を加え、日本産無節サンゴモ類をサンゴモ目サンゴモ科6亜科、ハパリデウム目ハパリデウム科2亜科とメソフィルム科、エンジイシモ目エンジイシモ科の84分類群（81種3品種）とした。なお、本論文で引用された海生研所蔵標本はすべて北海道大学総合博物館へ寄贈済みであるとのことである。本論文は今後、日本産無節サンゴモ類の分類学的再検討および生物多様性の把握に資するのみならず、



気候変動に伴う温暖化と海洋酸性化による海藻植生と分布の変化等を調査する上でも不可欠な基礎資料である。以下のURLからもダウンロードできるので、多くの会員の皆様には是非ご一読いただきたい。<https://www.kaiseiken.or.jp/publish/reports/report.html>

芹澤 如此古（山梨大学教育学部）